

# 風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

兄弟としていつも愛し合いなさい。2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。3 自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人たちを思いやり、また、自分も体を持って生きているのですから、虐待されている人たちのことを思いやりなさい。4 結婚はすべての人に尊ばれるべきであり、夫婦の関係は汚してはなりません。神は、みだらな者や姦淫する者を裁かれるのです。5 金銭に執着しない生活をし、今持っているもので満足しなさい。神御自身、「わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない」と言われました。6 だから、わたしたちは、はばからずに次のように言うことができます。

「主はわたしの助け手。わたしは恐れない。」

ヘブライ13：1～6

## 【説教要旨】

聖書の民、ヘブライ人は、自分を「さすらいのアラム人」と言います。「アラム・オヴェド・アヴィ」。この言葉は秋の収穫感謝祭ごとに人々が声を合わせて朗読した祈りです。神の民はさすらい旅人であるというのです。これをくり返し言い聞かせることによって自分たちの姿を示してきました。

「神よ、われわれはあなたの前ではすべての先祖たちがそうであったように、旅人です。寄留者です。われわれは世にある日は影のようです。永くとどまることはできません。」（歴代史上29・15）

神の民の歴史は、近代のユダヤ人の歴史は、見知らぬ異邦の

地で数々の艱難や悲劇に出会い、全身に傷を負いながら生き抜き、歩み続けた旅人であった。・・・確かに聖書の民の歴史は顧みれば顧みるほど旅人の歴史、寄留者の歴史であった。」（「旧約聖書の世界」 池田裕 平凡社）

だから神に喜ばれる奉仕の第一番目の「兄弟を愛し合う」ということの具体的なこととして「旅人をもてなすことを忘れてはいけません」と勧めるのです。また、それは同時に神をもてなすことになることを歴史から知っていたのです。旅人をもてなすことは、兄弟をもてなすことであり、また兄弟をもてなすこと、愛することは神を愛することになるのです。創世記を読んでもみますと、アブラハムは昼の暑い道をゆく三人の旅人をもてなします。ロトは二人の旅のみ使いをもてなします。

この旅人が彼らに祝福をもたらします。

**「そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。」**

イエスさまは、マタイによる福音書25章で「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さな者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」というみ言葉を語っておられます。

さて、私たちの周りには多くの旅人、寄留者がいましたし、います。たとえば、私たちの住んでいる朝倉市など地方都市は外国労働者抜きに経済はまわりません。2035年問題、労働力不足が10年後やってきます。2035年頃に団塊世代が後期高齢者（85歳以上）に達し、日本の総人口に占める高齢者の割合が3人に1人（30%超）となることで生じると予想され、懸念される、超高齢化社会に起因する複合的な社会問題が起きます。具体的には、介護・医療人材の不足とそれに伴う社会保障制度の維持困難、経済成長の鈍化と労働人口の減少、年金制度への影響、地域間格差の拡大などが主な課題として挙げられます。

今回の参議院選挙で示すように私たちと違うものに対して、つまり旅人、外国人、寄留者に対して非寛容な姿勢がますます強

くなってきました。愛知県に住んでいるときブラジル日系人の方のアパートを借りるために数日間、不動産屋さんを回りましたが、すべて断られました。外国人だからと。名古屋の平針という運転免許書交付のところで、「日本語も分からないやつに、免許を取る資格などない」とこれ見よがしに外国人の方に職員の方が言い放ったのを聞きました。

私たちは、国際化した日本という中で生活をしています。多くの私たちの文化、思考の違う人とこれから出会っていくでしょう。いろいろな文化の違いのぶつかりがあり、今、起きています。だからこそ、聖書の言葉から聞いていくことが大切なのです。特にイエスさまの教えは民族、国を超えていくものです。地球が狭く、多くの互いに違う人と生活を一緒にする日々であるとき、私たちはもっと聖書の民となること、されることが大切です。旅人であるという自己規定は聖書の民にとって、国家というものを特別に美化したり、絶対視しませんでした。むしろ王国とか国家というものは聖書的なものといえないものでした。人と人がどう生きていくかという個々人の関わりが最も大切なことです。数々の艱難や悲劇に出会い、全身に傷を負いながら生き抜き、歩み続けた旅人である神の民がこの地上を旅する者が生き方を決めていくのは、「**兄弟としていつも愛し合いなさい。旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてました。**」という言葉から見出すことができるのです。

私たちはこの地上を旅する小さなものです。しかし、私たちは愛なる神の「わたしは決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにしない」という声を聞きます。この愛なる神と共に生きる旅人として、また私たちの旅と異なる旅人にもこの神の言葉を届けるべく、外人としてではなく、「**兄弟としていつも愛し合う**」生き方を大切にしていきたい共に祈っていきましょう。「**兄弟として**」という言葉がますます必要になってくる時代です。そして、異なる旅人も、私の兄弟ように愛し、愛し合っていく世界を共に作っていきましょう。

## 牧師室の小窓からのぞいてみると



JICA 国際協力機構が、「アフリカホームタウン」ということは、アフリカの国と仲良く、交流会をしましょうという構想が、いつのまにかアフリカのいくつかの国の人をいくつかの市が移民を受け入れ促進、特別査証の発給をすると誤解を受けて、いくつかの市に抗議が殺到したというニュースがあった。

聖書は、「神よ、われわれはあなたの前ではすべての先祖たちがそうであったように、旅人です。寄留者です。われわれは世にある日は影のようです。永くとどまることはできません。」

(歴代史上 29・15)、自分たちを寄留者と決め、つまり日本でいうなら外人だということです。外国人ゆえにくるめられることが多かった。それを忘れてはいけないから、いつも「神よ、われわれはあなたの前ではすべての先祖たちがそうであったように、旅人です。寄留者です。」と自分たちを見つめ、そして、主はうずくまっている人を起こし、従う人を愛される。主は寄留の民を守り、みなし子とやもめを励まされる。詩篇 146：9 と自分たちの生き方を決めた。イエスキリストは「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書 25 章 40 節)」とあると教えを私たちに残した。現代の厳しい状況にあって、教会はこの言葉を噛みしめ、私たちの生き方、歩みを決めていく厳しい時代を生きていかなければならない。

## 園長・瞑想？ 迷走記



ある時、「先生は、どうして〇〇幼稚園に真剣に取り組むん聞かれたことがある。「うん～。〇〇幼稚園が好きだから」、「好きが力だよ」と答えたことがある。私は、いつも自分は牧師だというその気持ちで、「好きを」呼び出し、一步を踏み出し知恵をいただけるのかもしれない。牧師だから園長をする、私の与えられ召命。

## 日毎の糧

聖書：貧しい人々にはふるまい与え、その恵みのみ業は永遠に残る。彼の角は高く上げられて、栄光に輝く。



神に逆らう者はそれを見て憤り、齒ぎしりし、力を失う。神に逆らう者の野望は滅びる。詩編112：9～10



### ルターの言葉から

キリスト者は、たとえその愛が砂に注ぎ込まれる水のようにであっても、涸れることも、尽きることもない井戸を持っています。

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

### 弱者を守る事、これが聖書の中心

この詩編は古代の因果応報の思想に則って、教訓詩である。注目すべきは、「律法厳守を困窮者の支援という一点に絞り込んだことである（5，9節）困窮者に支援を惜しまない人はいつまでもヤハウェの祝福に満たされる（申命記14：29、詩篇41：2他）そうした観念は、いつしか、人生訓としても伝えられようになった（箴言14：31，19：17，22：9）」①

古代西アジアでは、社会的に弱い立場に立たされた人びとの保護は王の任務とされていた。最高の法典の前文は「余は孤児を富める者に引き渡さず、寡婦を強き者に引き渡さなかった」と記している。

聖書の民、イスラエル人はかつてエジプトで寄留者であり、奴隷であった弱者側にいたという歴史から社会的弱者や困窮者の保護を、民すべてに命じられた神の律法として受けとめていた。しかし、イスラエル人は自分が弱者であったから、強者になったとき、弱者、困窮者を保護するかという今このイスラエルのガザでの行為のように逆のことが多い。だから、律法にても、礼拝の時に読まれるだろうという詩篇において、何度も何度も弱者、困窮者を保護することを民に伝えた。

「本詩は、このような背景を持つ社会的弱者支援に神ヤハウェの意思を看取して、これを律法の核心のひとつと受けとめた知恵の伝統に連なる作品であった。」②

①② 詩編の思想と信仰V

月本照男

新教出版

祈り：常に弱者に心とわざを向けることが出来ますように。

歌舞伎



31日は私の誕生日である。本当によくここまで来たものだと思う。

久美子と結婚し、今年は、家内が次男の家に二子が生まれたので、頼まれて世話に東京に行き、一人での誕生日となった。そうか次男も男の子二人の父親かと思うと信じられない。

私の二人の息子は、よくここまで、捻くれもせず育てられたと思う。決して二人にとって、私は良い父親ではなかったと思う。

彼らの意志ない赤子のところで、幼児洗礼をいただき、中学に上がるときに堅信礼受けさせ、「教会へ行かないなら、私の子どもでないから、もう自分で稼いで生きなさい」とこっちは本気で子どもらに言った。信仰の押し付けである。決して豊かな家に育たなかった私は金の怖さを知らされたし、大病した私は、命のあるということに普通のように感じていなかった。だから金を超えるもの、命の儂さを超えるものは、与えられた信仰しかないと思身にしみていたから、残せる遺産は信仰だと。必死で、遺産を譲りたかった。子どもが幸せになるという自分の思いで育ててきたが、息子らは、押し付けに感じただろう。

歌舞伎の中村勘九郎(先代、後の18代目勘三郎)が、父親、17代目、勘九郎との歌舞伎の芸の継承についての本を読んでいると何か信仰の継承に似ている。

(甘木日記)土)休ませ明日に備える。日)朝、甘木の教会の方が迎えにきてくださる。ありがたい。無事に礼拝を終える。月)ルーテル羽村幼稚園のために東京に行く。2026年度幼稚園体制の準備。個人面談。火)羽村に行こうとするが体が動かず、zoomで参加。水)体調も落ち着き、早朝で福岡に。帰り職員会議。その後、大学病院へ。木)朝は松崎保育園に8月最後の礼拝、難しいグレゴリオ聖歌の旋律を綺麗に歌っている子どもの声に魅惑される。午後から大学病院、帰りに日善幼稚園に寄る。金)自宅にすることにすが、午後から短い時間、幼稚園に行く。

**おまけ・牧師のぐち**（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。  
ぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）相変わらず一日の体温朝は通常、微熱、夜は高熱、3時を越すと通常。明日に備える。家内がいるだけでも安心。日）甘木教会の方が自宅まで車で迎えにきてくださる。助かった。その前に家内と大喧嘩。家内が、しばらく息子の次男誕生のために手伝いに行っていなかったところに帰ってきたので、私と生活のパターンが違って、物の置き場所など違ってあるのできっと喧嘩をするぞと思っていたが案の定、喧嘩とあいなった。保育園の母子が、私のときにはじめて礼拝に出席くださる。嬉しいかぎり。続いて欲しいと思う。お母さんは熊本に帰り、礼拝に出たいと言うので、K教会のS牧師の所を薦めた。帰りも信徒さんに自宅に送っていただく。月）家内は生まれたばかりの孫の家の世話に、私は2026年度、羽村幼稚園体制を伝えるために、個人面談するためにどうしても東京に向かう。私がこんな体調で、いつ倒れてもすぐに来られるように良いように次男の住んでいる大森のホテルに泊まる。これは安堵。火）羽村幼稚園管理者会議に行こうとするが体が動かず、無理せずホテルでzoomでの参加。幸い、うそのように夜から熱も落ちて過ごせる。水）7時30分発の飛行機が不良があり、これを直すために出発が遅れる。幸い久留米の幼稚園の二学期の準備の職員会議に出席でき、15時から大学病院診察に間に合う。検査、点滴と血管に入り、穴だらけ。血管が出ないということは大変ですよ。夕刻、雷、雨で病院まで職員が帰り道に迎えにきて自宅まで送ってくださる。有難い。長男から誕生日祝い、私の病気を思ってくださいり恩師より



り「ご健康第一、心は熱していても体（息子から）は・・・体にいいスープを少々送ります。召しあがってください。」いつまでも教え子をお気遣いをいただき嬉しくなる。木）松崎保育園に8月の最後の礼拝、難しいグレゴリオ聖歌の旋律を綺麗に歌っている

（恩師より）子どもの声に魅惑され、心癒される。12時に大学病院、点滴、3回目にやっと注射が血管に入る。帰りに病院内のパン屋さんのパンを購入して、日善幼稚園に寄り、暑い中を子どもと歩んでくださる先生、職員に届ける。アイスクリーム屋さん31に卒園生の親子とがアイスクリームを美味しく食べている。挨拶し、ステラおばさんのクッキーをプレゼント。こんな機会、なかなかないでしょう。金）体調も改善しているので主日に備えて、体を休めることにする。体のことを心配されて残暑見舞いの一筆と味噌の元を送って下さる。元気になれそう。